

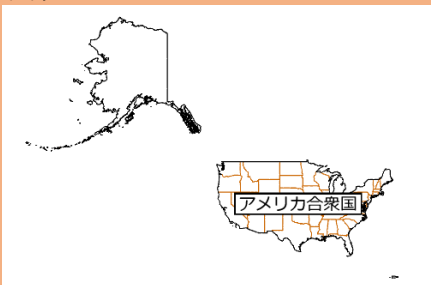
001.アメリカ合衆国

—アメリカ合衆国

(United States of America) — Vol.004

1. 外務省海外安全情報

2024年8月13日時点、
日本国外務省の海外安全
ホームページによる
「危険情報」は
発出されていません。



<大麻の危険性>

医療用または嗜好用の大麻の
使用等を合法化する州は近年

増加傾向にあり、嗜好用大麻については、現在、22の州およびワシントンD.C.において成人による使用等が認められています（使用量の制限や使用後の運転禁止等の規制があります）。ただし、日本の大麻取締法は、大麻をみだりに栽培、所持、譲受、譲渡した場合などに罰する規定があり、これらの行為は日本国外で行われても罪に問われる場合があります。そのため、嗜好用大麻の使用等が合法化されている州においても、大麻には決して手を出さないようにしてください。

<交通事故>

車両走行は、日本と反対の右側通行です。路上でタクシーや観光バス等から乗り降りする際や歩く際は、日本と違う旨で十分注意してください。

引用：

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_221.html#ad-image-0

参考：

人口10万人当たりの交通事故死亡数の割合を日本と米国で比較すると以下の結果となっています。人口比において約3倍となります。

	日本	米国	参考年
死亡者数	4,682	35,092	2018
10万人あたり	4.1	12.4	2018

引用：交通安全に関するWHO世界状況報告書
(対象：車・バイク・自転車・歩行者)

2. 総合的脅威度（当社研究所作成）

当研究所独自の基準で日本と比較し5段階評価。

2024年8月13日時点

総合	-1	0	+1	+2	+3
テロ脅威度	-1	0	+1	+2	+3
誘拐発生率	-1	0	+1	+2	+3
一般犯罪	-1	0	+1	+2	+3
政情不安	-1	0	+1	+2	+3

-1=比較的安全 0=日本と同等 +1=比較的危险 +2=危険 +3=きわめて危険

<総合>

アメリカ全土で毎日、軽犯罪（すり、ひったくり）が起きています。例えば、2024年8月時点、ニューヨークのセントラルパーク内では、2023年は10件だった強盗事件が、2024年に入りすでに30件ということ警備強化にあたっています。（ニューヨーク市警のデータ）また、銃器を用いた暴力犯罪（強盗、殺人）も頻度は高く、教育現場・公園・ショッピングセンター・パーティ会場にて、多くの死傷者をもたらす銃乱射事件が頻繁に起きています。近年は、偽警官が国際的詐欺グループが銀行口座を使っている、と電話やSNSで脅迫・金銭要求する事案が増えています。違法薬物に関しては、州ごとの規制がありますが、一般的にヘロイン、LSD、大麻等といった違法薬物は厳しい罰則の対象です。

<テロ脅威度>

米国当局は「イラク・レバントのイスラム国」（ISIL）「アル・カーイダ」（AQ）といったイスラム系過激派組織による自爆などの攻撃、及び、その思想に感化された「ホーム・グロウン型」テロ、単独犯によるローンウルフ型により日々国際テロの脅威を警戒しています。常に周囲に注意を払い、地元メディアの最新情報を入手し、地元当局のアドバイスに従ってください。

<一般犯罪>

人口10万人当たりの主要犯罪の割合を日本と米国で比較すると以下の結果となっています。

	日本	米国	参考年
殺人	0.23	6.81	2021
暴力犯罪	14.56	280.05	2021
誘拐	0.31	16.81	2021

引用：

UNODC(United Nations Office on Drugs and Crime)

3. 各国政府等からの海外安全情報

(英国政府等)

2024年8月13日時点

<総評概訳>

「テロリストが米国で攻撃を試みる可能性は非常に高い。」
外国人が訪れる場所も含め、無差別攻撃が行われる可能性がある。常に周囲に注意を払い、地元メディアの最新情報を入手し、地元当局のアドバイスに従う必要があります。ターゲットには次のものが含まれる可能性があります。
・混雑したエリア
・交通ネットワーク
・公開イベント

引用：

<https://www.gov.uk/foreign-travel-advice/usa/safety-and-security>

<テロ脅威度>

「経済平和研究所による世界テロリズム指数 2023」では、米国は世界163カ国中30位にランクされており、同国はテロの影響が非常に高いと評価。

引用：2023Global Terrorism Index

<https://www.visionofhumanity.org/wp-content/uploads/2023/03/GTI-2023-web-170423.pdf>

4. 当社研究所現地特派員レポート

2024年8月13日時点

Q1：現地到着時、特有（日本と違う）の注意事項があれば教えてください。

A1：米国の入国に際し、持込みの禁止や数量が制限されているものや、持込みの際に診断書の提出や事前の許可申請を求められるものがあります。出国前のご確認をお勧めします。

Q2：現地特有（日本と違う）の犯罪や事故に巻き込まれないようにするにはどうしたらよいでしょうか。

A2：米国においては、民事および刑事ともに法令・規則は州ごとに定められ、一律ではありません。
滞在する州からの情報にはご注意ください。

参考：

①現地ニューヨークからお届け！【海外危機管理・安全情報】
(2022年3月1日)

https://www.youtube.com/watch?v=2Be_1CkMITg

②現地ロサンゼルスからお届け！【海外危機管理・安全情報】
(2022年3月1日)

<https://www.youtube.com/watch?v=6s1N90ncxa4>

③現地アラスカからお届け！【海外危機管理・安全情報】
(2024年4月14日)

<https://www.youtube.com/watch?v=oag3cWzJ8eQ>